施工の注意点

主な道具

ローラー、刷毛、養生テープ、バケット

＊　アルミ製の道具はアルカリと反応するため使用できません。

＊　ローラーは中毛の 13mm、高粘度塗料用が塗りやすいです。

適応下地

石膏ボード、コンクリート、モルタル、合成樹脂ペイント、
布クロス、ビニールクロスなど

●合成樹脂ペイント、クロス下地については、種類や状態により塗布できないものがあります。
（防水・撥水加工がしてあるものなど）

●クロスは状態にもよりますが、なるべく剥がさずに塗装して下さい。
剥がした上に塗装する場合は、クロスの裏紙まで剥がして下さい。
（裏紙が残ったまま塗装すると、塗膜が浮いて剥がれます）

●ベニヤ下地はアクが出るため塗布できません。

●砂壁やじゅらく壁などに塗布する場合は、下地の状態をよく確認して、剥がれない場合は、水性シーラーを塗布後、しっくのんを塗装して下さい。
（剥がれる場合は、全部剥がすか、補修をして下さい）

●浴室や水廻りへの塗装は避けて下さい。
水が塗装面に掛かると、変色する場合があります。

下地処理

●塗料が付着すると困る箇所は、マスキングテープや新聞紙などで覆います。
（木部に塗料が付着した場合、変色する場合があります）

●塗装面の汚れ（油分、手垢など）はよく落として下さい。
落とさずに塗装すると、剥がれ落ちる場合があります。

●しっくのん塗装前に塗装可能な目地処理、下地処理を施して下さい。特に、ボードのジョイント部はひび割れ防止のため、塗装可能な目地シールやパテ処理を施し、サンドペーパーで平滑に研磨して下さい。その後、水性シーラーを塗布して下さい。

希釈

●原則無希釈で使用します。気象条件等で塗りにくい場合は、1～2%の水で希釈して下さい。但し、希釈しすぎると下地の隠蔽性が低下したり、色ムラ、硬化不良の原因となりますので注意して下さい。

塗装

●下地が十分に乾燥しているか確認して下さい。

●容器を開け **中身を十分かき混ぜ** 、塗料をバケットに移します。

●先ずローラーの届かない箇所（隅など）を刷毛で塗ります。

●その後ローラーで塗りこんでいきます。

＊ 刷毛を使用する部分は少なくして下さい

＊ 乾燥後、刷毛とローラーの表面が違いますので、なるべくローラーで塗りこんでください。

施工上の注意

●厚塗りはひび割れの原因となりますので、控えて下さい。

●重ね塗りをする場合は、下地が完全に乾燥していることを確認してから施工して下さい。原則 2 回塗りで仕上げます。

＊ 気象条件にもよりますが、石膏ボードなどの吸水性の大きい下地の場合 3 時間以上、ビニールクロスなどの吸水性の小さい下地の場合 6 時間以上間隔を取って下さい。

●施工道具については、使用後すぐに水で洗浄して下さい。乾燥すると塗料が取れにくくなります。

●しっくのんは消石灰などの粒子が主原料です。
合成樹脂ペイントと異なり、塗膜の重なり部分がムラになる場合がありますので、ご了承下さい。
留意点として、力を入れてローラーから搾り出すのではなく、軽く延ばすように塗って下さい。同一面は休まずに塗装して下さい。途切れるとその部分が、塗膜厚さのムラになります。

取扱注意事項

●施工の際には出来るだけ塗料が皮膚に触れないように注意し、必要に応じて保護手袋・保護メガネ・保護マスクを着用して下さい。

●皮膚に付着した際にはよく水で洗い流し、痛みや外傷等が生じた場合には医師の診断を受けて下さい。

●誤って目に入った場合は水でよく洗い流し、医師の診断を受けて下さい。

●誤飲しないように注意してください。

●開封後は出来るだけ使い切ることをお勧めします。

●凍結の恐れのある場所での保存、使用は避けて下さい。

●子供の手の届かない場所に保管してください。

注）しっくのん及びしっくのんＡは、主原料が古来の**しっくい**と同様**消石灰**であることにより、特性上乾燥収縮が起きやすく @、ジョイント部やコーナー部に軽微なクラックが入る場合がありますのでご了承下さい。

@**しっくのん**及び**しっくのんＡ**は、塗布後乾燥していくにつれて空気中の二酸化炭素と反応し、原料の石灰石に戻っていく性質があります。
また、塗膜表面に触れると白い粉が付く場合があります。（**白華現象**）
粉は炭酸カルシウムですので、環境上の問題はありません。